

## 75 近代期の中国における平民教育運動

——定県実験区における農民教育と衛生——

三橋 かほり

北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部  
東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室

二十世紀の中国農村では、農村の衛生改良は、農村社会の近代化を担う極めて重要な領域であり続けた。中華民国期（一九二二—一九四九）、中国農村の代表的改良運動として知られる平民教育運動においても、農民の衛生意識・行動の改良は主要なテーマであり、ここで行われた様々な取り組みは、中華人民共和国（一九四九—）の農村衛生工作に、名称は変化しながらも取り入れられてゆく。平民教育運動とは五・四運動（一九一九）の時期に流行した郷村建設運動を支える教育思潮である。農民に対し教育・文化を普及させ生活の改善を行うことで、当時の疲弊し続ける中国農村を救うことが目指されたのであった。この運動は幾つか

の平民教育実験区を生みだし、特に河北省定県の実験区はその規模と経験において最良例とされている。

定県実験区を創始した晏陽初は、一九二六年の事前調査を皮切りに、一九二九年には定県を実験県として選定し、一九三〇年以後、当該地区における教育実験を展開した。この教育実験の内容は文芸、生計、公民、衛生の四大教育により構成され、各教育を通じて、農村の発展を阻害する問題点と診断された「愚・窮・弱・私」の改善が目指された。うち、衛生教育については、一九二八年、晏陽初と北京協和医学院公衆衛生科主任の蘭安生との協力の下、実施された。蘭安生は姚尋源を定県実験区に派遣し、衛生部門の工作を主管させた。これが、中国の高等医学教育機関による農村の公衆衛生の教学基地の始まりである。一九三一年には、姚尋源の後任である陳志潜が中華平民教育促進会（平教会）の衛生教育部主任を兼任し、一九三二年、平教会の社会調査部門と共同で衛生調査を実施した。その結果、定県における病死者の三〇%が医者や葉等の医療に与れなかったこと、県内の約半数の村には村

医が存在せず、残存する村医についても正規の医学訓練を受けていないといった医療資源の深刻な欠乏状況、さらに、平均死亡率は三五%前後、乳児死亡率は二〇%であり、伝染病流行が猖獗を極める現状が指摘された。こうした劣悪な衛生状況に対して、農村の基層（村・区・県）に体系化した衛生業務の連携と協力のシステムを建てることを通して、農民に基本的な衛生を提供することが提議された。これが、中国における県を単位とした保健制度の創始となった。一九三二年から一九三五年にかけて構築されたこの保健制度は、保健員・区保健所・県保健院の三レベルにより成り立つネットワークであり、その中で医療・予防・母子保健の各業務が展開された。保健制度の第一レベルを担う保健員は、①衛生知識の宣伝と教育（衛生常識・産児制限知識等）、②出生死亡の届出、③予防接種と井戸管理、④一〇種の常用薬の保管、⑤常見的な疾病の救急治療、⑥病人の転送等の村の衛生業務を主管した。第二レベルとしての区保健所では、①村保健員の業務指導と監督、②外来診療、③学校衛生と衛生教育（産児

制限指導を含む）、④急性伝染病の予防、⑤病人の転送等、区域の衛生業務が主管された。第三レベルとしての県全体における衛生業務を統括する県保健院では、①衛生行政・衛生業務計画、②衛生教育、③衛生従事者の訓練、④病人治療、⑤伝染病予防と研究、⑥産児制限薬の調合・指導員、等の業務指導と管理を行った。このほか、旧来の産婆に対し新式助産法の訓練が平教会衛生教育部により主管された。

以上のような定県の保健制度は、農民の衛生状況について大きな改善をもたらし、当時の国内外の公衆衛生学者の賞賛を得た。後に成立する南京国民政府の衛生署は、定県の保健制度を参照するかたちで、県、郷鎮、保（村）の各行政レベルに衛生院、衛生所、衛生員を各々設置することを決定し、中華民国の農村基本衛生システムとして普及が目指されたのである。